

# 責任を持ち物事に力一杯取り組む子

— 調理学習・行事単元学習を通して —

今 岡 雅 子

## 1. 対象生徒の実態

生徒名 M・T（男） 昭和43年4月13日生

I Q58（鈴木ビネー） 昭和58年6月10日実施

K学園に在園。鳥取市立H中学校より本校高等部へ入学、現在に至る。

### (1) 対象生徒の性格上の特性

小さな子どもの面倒をよく見る。おとなしく、自分より弱いと思われる者を、都合の良いようにうまく利用することがある。気が短く、ちょっとした事ですぐに怒ったり、何度も注意を受けたりすると腹を立てやすく、それが表面に表われやすい。また、自分の得意なものや興味のあるものに対しては、熱心に取り組むが、そうでないものに対しては取り組み意欲に欠けたり根気があまり続かなかったりする。

## 2. 個人目標の設定

T生徒は、本校高等部において能力的に高い方にみられている。学力等では、数学の面においては、簡単な四則計算がひと通りでき、国語においては、小学校2年生程度の漢字を読んだり、それを使って簡単な文章が書けるが、苦手とする。また、敬語を用いての会話が可能である。指先の攻緻性もあり、ある程度の器用さが要求される物の作製も可能である。しかしながら、上記の通り物事への取り組み意欲にむらがあり、自分の能力を十分発揮し物事に精一杯取り組もうとする点で、欠けている。緊張感のない状態が続けば規律のない学校生活を送る事になり、その事が周囲の生徒へ悪影響を及ぼすことにもなりかねない。また、本校を卒業した後は就職を希望しており、いずれかの職場で働くことになるであろう。職場では、責任を持って働くことが要求されてくるので、そうした事も考慮に入れ、個人目標を「責任を持ち、物事に力一杯取り組む」とした。

## 3. 研究方法

上に述べた個人目標達成に向かうために、次の二点を考えた。

- (1) T生徒の持っている能力が十分発揮できるような場面を一時間の授業の中に設定する。
- (2) リーダーシップ的な役割を果たす機会を多く与える。ただし、本人が納得した上で与える。

(1)については、調理実習において実践する。T生徒は、調理実習を好み、庖丁の扱い方など技術的にも他の生徒より優れているが、簡単に調理ができるとわかれば取り組み意欲を欠きやすいので意欲を持続して、実習に取り組めるよう配慮する。

(2)については、行事単元学習を通して精神的強化を図ることとし、学部のみで行う行事のみならず学校全体で行う行事でも試みる。

## 4. 取り組みの構想と手だて

(1) 調理実習における構想と手だて

① 調理実習における構想（4月から9月までのおやつづくりを例示）

単元	主な学習活動	M・Tの主な活動内容	指導上の留意事項
おやつづくり	クレープをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班長になる。</li> <li>・クレープを焼く。</li> <li>◎中にはさむクリームを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3グループに分け班長を中心に活動させる。</li> <li>・クリームは班長につくらせる。</li> </ul>
	ヨーグルトサラダをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班長になる。</li> <li>◎クラス全員の前でりんごの皮むきをする。</li> <li>・サラダの材料を切る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3グループに分け班長を中心に活動させる。</li> <li>・庖丁で手を切らないよう安全に留意させる。</li> <li>・自分のものは、自分で作ることを前提とさせる。</li> </ul>
	フルーツポンチをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班長になる。</li> <li>◎クラス全員のシロップを作る。</li> <li>・フルーツポンチの材料を切る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かん切りの不慣れな生徒には、慣れさせるためにかん切りをさせる。</li> <li>・各自に材料を切らせる。</li> <li>・安全に留意させる。</li> </ul>
	大学いもをつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いもを洗う。</li> <li>・いもをあげる。</li> <li>◎いもをからめる、あめを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いもをきれいに洗わせる。</li> <li>・油の取り扱いに気をつけさせる。</li> <li>・火力調節をこまめにさせる。</li> </ul>

② 手だて

- ・ T生徒にとって調理実習は得意分野であるので、他の生徒より技術的にやや高度と思われる活動内容を組み入れる事により、力一杯取り組んだという充足感を与える。

（○印……他の生徒とは異なった活動内容を示す。）

- ・ うまくできた時や真剣な顔つきで活動している時、及び最後までやり遂げた時には必ず賞賛する。

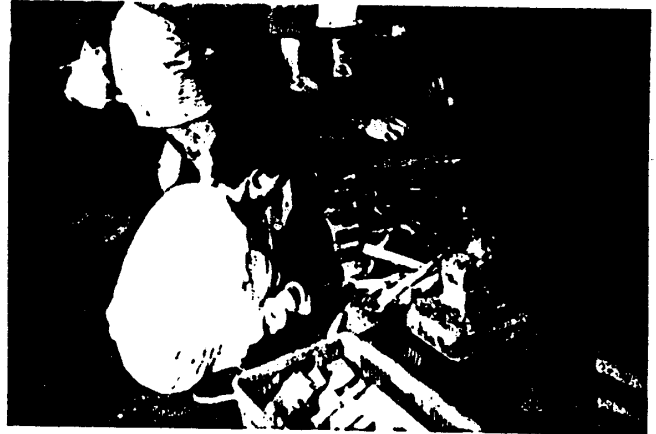
(2) 行事単元学習における構想と手だて

① 行事単元学習における構想

月	対象	行事名	M・Tの主な活動内容	行事のねらい
5月	高等3部年	修学旅行文集製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文を書く。</li> <li>・印刷をする。</li> <li>・製本をする。</li> <li>・発送をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行の思い出を文集にし旅行をふり返る。</li> <li>・各自が与えられた役割の責任を果たし文集を完成させる。</li> </ul>
6月	高等全部員	農園宿泊職業実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊をする。</li> <li>・農園の草取りをする。</li> <li>・さつまいもの苗植えをする。</li> <li>・市場見学をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会自立に必要な態度を育成する。</li> <li>・作業に必要な基礎的スキル・知識を習得させる。</li> </ul>
6月	高等全部員	学部遠足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーリングをする。</li> <li>・教生の先生方と一緒に遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教生の先生方といっしょに活動することによって親しみを持つ。</li> <li>・自然に親しんで自然の良さを味わう。</li> </ul>
7月	高等全部員	キャンプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーリングをする。</li> <li>・キャンプファイヤーをする。</li> <li>・炊飯や宿泊をする。</li> <li>・ゲームやフォークダンスをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野外でのいろいろな活動を通して、自分の役割を成し遂げること、友だちと協力することの大切さを理解する。</li> <li>・キャンプ用品の扱い方を理解し、自主的に活動する。</li> <li>・キャンプの楽しさを十分味わう。</li> </ul>
9月	全童・生徒	運動会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手宣誓をする。</li> <li>・演技をする。</li> <li>・決勝係をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで演技や競技をする態度を養う。</li> <li>・協力して良い運動会にしようとする自立の態度を養う。</li> </ul>

② 手だて

- ・ 責任のある仕事を与える。
- ・ やるべき事をやっていない時には、最後までやり遂げるよう励ます。
- ・ 一生懸命取り組んでいる時には、必ず賞賛する。



5. 指導実践例

(1) 調理実習を通して

簡単にできるおやつ作りの実習を通して、庖丁の扱い方や火の取り扱い方にどの生徒も慣れ、少しでも技術的に向上することをねらって実施した。実習の内容的な面で、T生徒にとっては簡単すぎ、どちらかと言えば意欲をそぐ内容であった。実際、事前に「〇〇をつくろう。」と連絡すると「つまらん。」「しょうもない。」といった返事がよく返ってきた。しかし、授業の中でT生徒でなければできないような活動、他の生徒にとっては難しいと思われる活動をさせる事によって、実習態度はだいたい良かったと言える。ここで具体的に掲げてみることにする。

- ・ 友だちに「〇〇をきなさい。」と言って、何もしていない友だちに声かけをし、友だちをリードしながら取り組んだ。
- ・ 作り方などの話をきく時、真面目にきいた。
- ・ 食器等のあとかたづけ、調理室のそうじなど最後まできちんとした。

などである。

(2) 行事単元学習を通して

① 修学旅行文集製作

T生徒は、文章を書くのが大の苦手であるが割り当てられた個所の作文は書いた。所々、書く内容の参考になるような事を先生に質問をしながら、時間内にある程度の量を書いた。この後、全員の書きあげた作文をファックスにかける仕事をT生徒に与えた。最初は、興味もあってか意欲的に取り組んでいたが、上手にファックスがとれず注意を受けてくると、他の作業の方がいいと言い出した。そこで、失敗の原因を教えたり、正しいとり方を説明したり、また、T生徒しかその仕事のできる者はいない、といった事を話すと気持ちを取り直して全てをファックスにとった。更に、文集の原稿とは全く関係のない教師用のものまでファックスにとってくれたのである。

② 農園宿泊職業実習

この実習には高等部全員が参加し、1年から3年までを縦割りにして班を編成し、班ごとで作業や宿泊をするものである。教師側は、T生徒の意向が班長へ傾くよう、3年生で最上級生である事を班長決定の話し合いの中で取り上げる配慮をした。その結果、T生徒が班長となった。実習では、主にかまを使って草刈りを担当し、時々、人から離れた場所で手を休めている時もあったが、時間内に所定の場所をきれいに刈り取った。ひと通り刈り取った後でもう少し短く刈るよう促しても腹を立てることなく刈り直した。また、体調が思わしくなくさぼった日には、反省会で、その事についての反省を言った。

③ 学部遠足

高等部全員と教育実習生がいっしょに行う遠足である。副班長を自主的に務めた。オリエンテーリングでは、袋持ちを率先して行い、袋の中に草を入れて運んだ。また、班員をきちんと並ばせたりもした。勝負がかかっていたためか、熱心に取り組んだ。

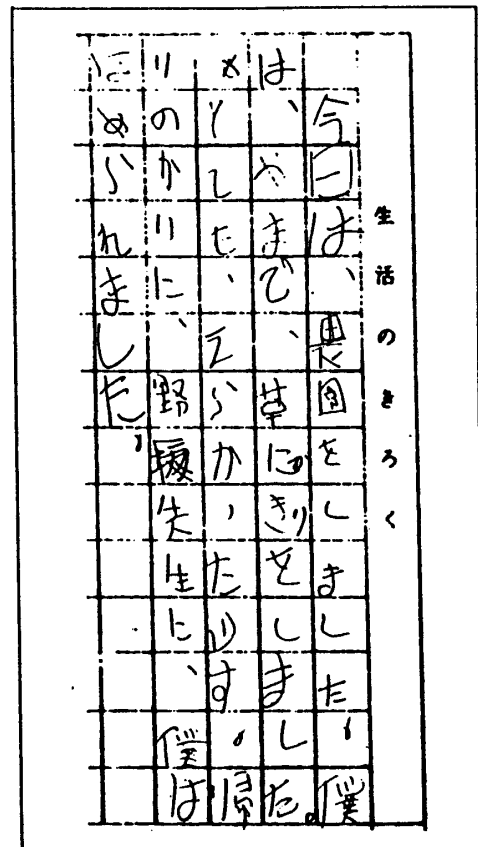
④ キャンプ

この行事では、自主的に副班長を務めた。主な日程の中で次のような様子が見受けられた。

- ・ オリエンテーリング……歩きの遅い友だちを待ったり、手をひいたりした。ジャングルジムでは友だちを先に行かせ本人は最後に行った。
- ・ 食事づくり……火たきや食器等の後片付けを責任持って行った。

⑤ 運動会

T生徒は、保体部の副委員長であったため選手宣誓をした。終わりの会の前の短時間、宣誓の書かれた紙を机の下に隠し、周囲に気付かれないような方法で練習をしていた。運動会当日は、少し緊張していたが大きな声で堂々と選手宣誓ができた。



(農園宿泊職業実習中の生活ノートより)

6. 考察と課題

T生徒が「責任を持ち物事に力一杯取り組む」ようになることを目指して実践を重ねてきた。その結果、調理実習においては、彼が興味を持っていることからか、多少難度の高い課題を与えても張り切って、最後まで責任を持って取り組むことができたと言える。行事への取り組みからみると一生懸命に取り組まなければならないという気持ちは高まってきているものと考えられる。殊に、彼が納得して行う際にはたいへん意欲的である。しかし、時として頑張ろうとする気持ちの高まりが行動としてうまく表面上に表われてこないこともあり、周囲に誤解されやすい。この事が、周囲といさかいを起こす原因となることもあった。

本研究を通して、18才という多感な時期に「〇〇をしなさい。」といった押しつけでは意欲を持って取り組みにくく、ある程度、目的意識などを持たせることが大事であり、また、内面的な気持ちの高まりをも見逃がさない配慮も大事であることを改めて痛感した。更に、教師側の物事に取り組む姿勢も生徒の意欲づけに反映するので、この点についても考えながら今後の指導に当たりたいと考える。